

推薦調書（アイデア部門）（注1）

		推薦都道府県	静岡県
地方公共団体名	藤枝市		
アイデア名称	多機能カーブミラーによる交通安全対策推進事業		
連携自治体、企業、団体等	榑村上開明堂（仮）、地元自治会、藤枝警察署		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）（注2）	①	（左記が①の場合の分野） 交通
	<p><b>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</b></p> <p>○死角となる方向からの接近を運転手に分かりやすい方法で知らせる『多機能カーブミラー』を、市内の出会い頭事故の危険が予測される交差点に設置し、通行車両に対し、減速を促すことで、出会い頭事故低減につなげる</p> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <p>○藤枝市は、市民の暮らしに直結する「健康・教育・環境・危機管理」の4K重点施策に力を入れており、中でも危機管理の分野においては、『交通安全日本一』を目指し、様々な交通安全対策を展開している。</p> <p>各種施策の効果もあり、藤枝市内の交通事故発生件数は減少傾向にある。しかし、令和2年度には人身事故が829件発生しており、一日あたり2.3件発生している計算となる。また、人身事故の中でも、出会い頭の事故は225件(全体の27.1%)発生しており、対応が必要な課題となっている。</p> <p><b>【解決する課題の具体的内容】</b></p> <p>○上記課題の解決を目的に、カーブミラーの対象となる2方向からの車両（自転車含む）をカメラセンサーとAIエッジコンピュータが認識し、カーブミラーに内蔵された発光器を点滅させることで、車両や歩行者へ注意喚起を行う。</p> <p><b>【一方向の場合】</b> 外周のLEDのみ点滅</p> <p><b>【双方向の場合】</b> 外周の点滅と共に鏡面の発光器を左右交互に点滅。</p>		
デジタルの活用により目指す成果（数値）	<p><b>【取組が目指すアウトプット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機器設置前後の減速車両の割合 令和4年度 10%、令和5年度 15%、令和6年度 20%</li> <li>市内における出会い頭事故発生件数 令和4年度 203件、令和5年度 193件、令和6年度 183件</li> </ul> <p><b>【取組が目指すアウトカム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人身交通事故発生件数 令和4年度 875件、令和5年度 850件、令和6年度 825件</li> </ul>		

<p>本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本アイデアにあたっては、令和3年度に藤枝警察署の協力の下、検証を行っている。交差点での出会い頭事故防止を目的に実施し、実績として交差点への進入速度の減速が図られていることから、令和4年度中に市内複数箇所における実装を行うものである。</li> <li>・自動車用バックミラーで国内有数のシェアを誇る村上開明堂が持つBSM（ブラインド・スポット・モニター）の技術を用いて、鏡面内に発光体を内蔵させ、カメラセンサーで検知した車両に注意を促す仕組みとなっている。</li> <li>・カメラセンサーでは、画像を数値化し、匿名処理をした上で、車種及び車両速度データの蓄積が可能であり、通行量分析等道路行政におけるビッグデータ活用への展開にもつなげられる。</li> <li>・実効性を高めるために、藤枝警察署、地元自治会との協力体制を構築し、行政（藤枝市）は収集データの分析・公開、藤枝警察署・地元自治会は設置場所選定に関する助言・協議の役割を担う。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプTYPE1）採択事業として、市内複数箇所にて実装予定。</li> <li>・令和5年度以降、事業効果・導入コストを鑑み、市内他地域に展開。</li> </ul>

注1： 行や列の追加は行わないでください。行や列を拡大していただくのは差し支えありませんが、最大2ページの内で作成をお願いします。

注2： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① 域内市町村の取組で、デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。  
（・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災）
- ② 域内市町村の取組で、高齢者、障害者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。

## 「多機能カーブミラーによる交通安全対策推進事業」概要図

藤枝市が力を入れている「健康・教育・環境・危機管理」の4K重点施策の中で、危機管理の分野においては、『交通安全日本一』を目指し、様々な交通安全対策を展開している。各種施策の効果もあり、藤枝市内の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、令和2年度には人身事故が829件発生しており、一日あたり2.3件発生している計算となる。また、人身事故の中でも、出会い頭の事故は225件(全体の27.1%)発生しており、対応が必要な課題となっている。この課題解決を目的に、カーブミラーの対象となる2方向からの車両（自転車含む）をカメラセンサーとAIエッジコンピュータが認識し、カーブミラーに内蔵された発光器を点滅させることで、車両や歩行者へ注意喚起を行う。

### 【役割分担】

#### ○藤枝市

- ・経費負担
- ・収集データ分析・公開
- ・関係者への事業周知

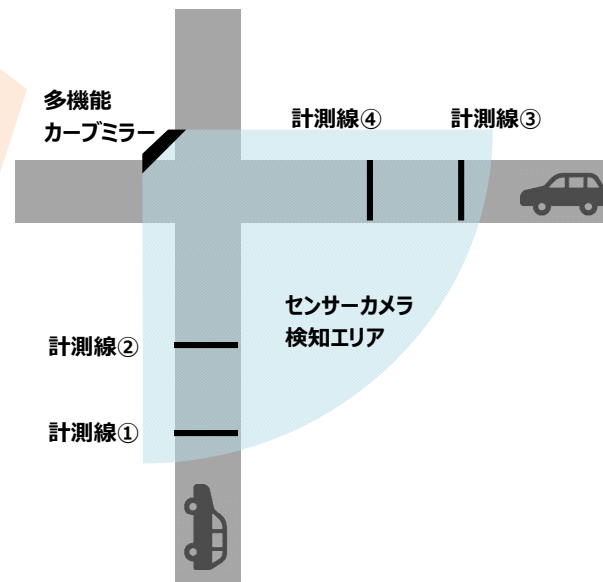
#### ○受託事業者

- ・設置場所特有の課題への対応
- ・機器製作・設置・維持・管理

#### ○藤枝警察署・地元自治会

- ・設置場所選定に関する  
助言・協議

### 【事業イメージ】



カーブミラーの対象とする2方向のセンサーカメラ上の画像に、計測線①、②、③、④を引き、車両進入感知エリアを設定。

AIエッジコンピュータが画像から、トラック・乗用車・バス・バイク（自転車）を認識し、速度、車種をデータ化（蓄積）。

計測線に認識した車両が進入した場合、カーブミラーに信号を発信。発光器を点滅させ、車両や歩行者へ注意喚起。

#### 【一方向からの進入の場合】

外周のLEDのみ点滅

#### 【双方向からの進入の場合】

外周の点滅と共に鏡面の発光器を左右交互に点滅。

道路形状等により、より交差点に接近した際に点滅を早くするなど、計測線②・④通過時の点滅の挙動を変えて、注意喚起を行う。